

飯田市長 佐藤健 様

2024年7月10日

リニアから自然と生活環境を守る沿線住民の会

代表世話人 熊谷清人

〃 大坪勇

〃 北林強

初夏の候、貴職益々ご清栄のことと存じ、お慶び申し上げます。
さて、このたび私ども沿線住民の会は署名用紙での賛同署名1522筆、オンライン署名
4914筆、合計6436筆の賛同を得て、以下の要請をおこないます。

○要請事項

J R東海に対してリニア長野県駅（仮称）の工事に重金属類を含む要対策土を使用する
計画を直ちに中止するよう要請してください

○趣旨説明

J R東海は駅を支える橋脚の基礎工事に基準値を超えるヒ素などの重金属類を含む要対
策土を使用する＝活用すると説明しました。土曾川と国道153号線を跨ぐ橋りょうの3つの
橋脚のケーソン基礎の中詰め材として活用することですが、周囲や下流の地域は農業
地帯です。

土曾川については、工事個所から下流での業用水の取り入れ口が、右岸で3カ所(工事個
所のすぐ上流に1カ所)あり上郷地区に、左岸に1カ所あり座光寺地区に農業用水として使
用されています。上郷の飯沼丹保地区では、リニアが来るのは良いが、要対策土を工事に
使われるのは困るという農家の声も出ています。

「自然由来の重金属類」とJ R東海は説明するのですが、自然由来だから安全というわ
けでは決してありません。重金属汚染は住民に健康被害・農産物の出荷停止など深刻な被
害をもたらしてきました。特にヒ素は発がん物質として知られています。「要対策土」と
言葉を換えてみても実態はトンネル工事によって地中深くを掘り出した有害な産業廃棄物
にすぎません。

工事期間中は荷下ろし場所が川岸にごく近いいため要対策土の飛散や流出が懸念されま
す。工事完了後は中詰め材から漏れる重金属類による水質汚染が懸念されます。

J R東海は基礎は1.5m の厚さがあるので汚染が広がる心配はないと説明しますが、コ
ンクリートの寿命はせいぜい100年といわれます。J R東海は責任をもって管理すると言
っているようですが、未来永劫に管理できる可能性があるとは思えません。要対策土の使
用は将来世代に大きな負の遺産を残すものです。

また、リニア工事に関連して、山梨県早川町の発生土置き場の地下水からはセレン、岐
阜県の長島トンネル工事の発生土置き場近くの井戸からは六価クロムなど、有害物質の流

出が報道され、先日には飯田市下久堅の発生土置き場からも高濃度のアルカリが河川に流出したと報道されました。瑞浪市大湫町の井戸の水位低下などもあわせ J R 東海の環境保全についての姿勢の不十分さを示すものです。このようにいくら言葉で安全を説かれてもこれらの実態が示すように住民の不安が拭えるものではないのです。

長野県は飯田のリニア中間駅を長野県の南の玄関口とっています。飯田市の玄関口でもあります。その新しい玄関口に要対策土を持ち込むことは、大きなイメージダウンになります。リニアに期待する人たちにとっても残念なことです。

J R 東海は豊丘村で、豊丘村の中心部から約10km離れた山奥の本山の発生土置き場について、人里離れているので要対策土の処分場所の適地と説明しました。であれば、人里の真ん中であるリニア駅周辺で要対策土を活用することは、豊丘村での説明とまったく矛盾します。

J R 東海は2022年9月27日に上郷公民館で土曾川橋りょうの工事について説明会を行いました。この説明会では中詰め材として要対策土を活用するという説明は行っていません。6月29日の豊丘村内の説明会で、村内の壬生沢川を渡る橋りょうのケーソン基礎について、中詰め材として要対策土を使うのかとの住民の質問に J R 東海は、今のところ考えていないと、あいまいな返答をしています。こうした経緯をみると、つまり住民に知られたくない情報は直前まで知らせないということではないかとの疑念が生じます。これでは、国交大臣が認可にあたって J R 東海に求めた、丁寧な説明で沿線住民の理解を求めよという要請に反します。飯田市としても J R 東海に対し、住民に真摯に向き合うよう求めてください。

ハナノキ自生地への残土埋め立て問題で揺れた岐阜県の御嵩町は、問題のない残土についての受け入れは認めざるを得ませんでした。要対策土の受け入れは認めていません。また、岐阜県瑞浪市大湫町のリニアトンネルを原因とする水枯れの発生を受けて、人ごとではないと、御嵩町は要対策土以外の残土に対しても受け入れについての J R 東海との協議を中断してしまいました。このように J R 東海の言い分を唯々諾々と聞いているだけでは自治体の住民に対する責任は果たせません。飯田市としても、住民の健康と環境を守る本来の責務を果たしてください。

ただちに飯田市として、J R 東海に対し工事に要対策土を使用する計画をとりやめ、中詰め材には重金属を含まない材料を使用することを求めてください。